

農作業改善対策事業に取り組んで

—高岡地区・疏菜園芸農家において—

高岡農業改良普及所 新庄靖子

高岡市福田、小勢、東五位の三地区は市の南西に位置し、秋冬大根、ねぎ、かぶ、なす、トマト、きゅうりなどの野菜が栽培され、高岡市場に出荷され、県西部地域の野菜の生産基地となっている。昭和61年から園芸農家農作業改善対策事業が3カ年間にわたって導入されている。この事業は、現在及び将来とも安定した農業経営を営むために、生産集団ぐるみで農作業労働とのかゝり等による健康管理対策を図って農業者の生産及び生活の基盤を確立するというのが目的となっている。

昨年、高岡市健康推進協議会を結成し、この協議会を通じ農作業改善の主旨徹底をはかって、野菜農家の農作業、生活の実態調査及び健康自覚症状、ミニ健診等の状況把握を行なった。問題点として、①中腰姿勢で作業する人が75%で、時間や期間などが長いことから、足やひざ、腰の痛みを訴える人が73%と多く、定植や除草作業、収穫調整に負担を感じている。

②収穫物のほ場外への運搬が重い負担を感じている人が主婦に多く、48%である。又、経営主は43%となっている。

③夏の日盛りに、身体の調子が少々悪くても無理をして作業をするため頭がくらくらするなどの訴えが52%と多い。農薬散布、葱の土寄せやなすの収穫など畑の管理に負担を感じている。

④身体の調子が少々悪くても農薬散布をするという人が主婦で48%、経営主で54%である。身仕度や農薬に対する注意事項などあまり考慮されていない。主婦が83%、経営主が68%であった。その結果から、今後の改善方向を見出し、実証課題を設定した。実証課題として、

- ①ねぎ、キャベツ、大かぶ、なす栽培農家の中腰姿勢の作業軽減
- ②キャベツ、大かぶ、大根、なす等のほ場外搬出方法の改善
- ③夏期における、日中作業の改善
- ④農作業時の安全な作業装備
- ⑤バランスのとれた食生活改善
- ⑥健康管理についての啓蒙
- ⑦農作業労働の適正な配分等の改善項目が設定された。

野菜栽培農家ではミニ健康診断を初めて受けるという人が98%と高く、これまで受診しなかった理由として忙しくて暇がないとか、健康であると思っている人が多かった。このことから、この事業導入の成果が期待される。疾病内容も、高血圧、高脂血症や肝機能異常、コレステロール高値、中性脂肪高値等が多い。これからは農業者自身が積極的に健康管理を行ない、能率的な農作業改善によって将来とも安定した農業経営を営んでもらいたいものである。